

(仮称) 第16中学校新設計画 (案)

平成29年2月

苫小牧市教育委員会

目 次

1	計画の経緯	1
2	沼ノ端中学校の現状	1
3	生徒数の推移	2
4	事業スケジュール	2
5	建設予定地・通学区域	3
6	新築の基本的な考え方	4
7	計画概要・設計趣旨	5
8	配置計画図	6
9	平面計画図	7
10	外観イメージ図	9
11	工程ごとの配置計画図	10

1 計画の経緯

沼ノ端中学校は、平成 18 年から生徒数の増加に対応するため、仮設校舎を設置している。しかし、仮設校舎は一時的な対応として設置したが、生徒数は減少しておらず、現在も使用している。さらに、沼ノ端中学校の生徒は国道 234 号線の跨線橋を活用して自転車通学しており、片側しか歩道がない危険な状況であることから、それらの問題を解決するために、ウトナイ地区に(仮称)第 16 中学校を建設するための新設計画(案)を策定した。

2 沼ノ端中学校の現状

(1) 現在の規模（平成28年5月1日現在）

生徒数	594名
普通学級数	17学級
教室数	
普通教室	15教室
仮設教室	6教室

(2) 生徒数・学級数の経緯

年度	生徒数	学級数	備考
H18	595	17	仮設6教室設置
H19	616	18	
H20	690	20	
H21	518	15	青翔中学校開校
H22	556	16	
H23	582	17	
H24	595	17	
H25	616	18	
H26	596	17	
H27	600	17	
H28	594	17	

※各年度の5月1日

3 生徒数の推移

(1) 現在の沼ノ端中学校校区の生徒数・学級数の将来推計（平成28年5月1日現在）

年度	H29	H30	H31	H32	H33	H34
生徒数	576	540	532	548	546	568
学級数	16	16	16	16	16	16

(2) (仮称)第16中学校の生徒数・学級数の将来推計（平成28年5月1日現在）

年度	H31 (開校)	H32	H33	H34
生徒数	381	385	382	380
学級数	11	12	12	12

(3) 分離後の沼ノ端中学校の生徒数・学級数の将来推計（平成28年5月1日現在）

年度	H31 (分離)	H32	H33	H34
生徒数	151	163	164	188
学級数	6	6	6	6

4 事業スケジュール

年度	事業内容
H28	• 基本設計 • 住民説明会 • パブリックコメント
H29	• 実施設計 • 地質調査 • 校名決定
H30	• 校舎建設 • 屋内運動場建設 • 外構（グラウンド、テニスコート、防球フェンス、歩道拡幅等）
H31	• 開校 • 外構（舗装、外柵等）

5 建設予定地・通学区域

(1) 建設予定地

苫小牧市ウトナイ北2丁目5番（一部ふるさと農園として使用中）

(2) 通学区域

学校名	区域
沼ノ端中学校	※沼ノ端小学校と同一区域 字柏原、字静川、東開町、沼ノ端中央、字沼ノ端（鉄南地区）49・52番地
（仮称）第16中学校	※ウトナイ小学校と同一区域 北栄町、ウトナイ北、ウトナイ南、字沼ノ端（鉄北地区）



6 新築の基本的な考え方

平成31年度以降の（仮称）第16中学校の生徒数は、平成28年5月1日現在の推計によると、ほぼ横ばいで推移している。しかし、校区内の分譲により人口が増加することも想定されるため、普通学級数については、開校時には12学級を想定しているが、現在工事中のウトナイ小学校増築分も含めた学級増に対応可能な計画とするため、普通教室に転用可能な特別活動室を6室配置する。

その上で新築の基本的な考え方は以下のとおりとする。

（1）安全安心

- ・管理諸室は生徒の通学や屋外活動の様子を確認できるように配置し、オートロックやインターホン、防犯カメラを設置する。
- ・安全な通学動線に配慮した配置計画とする。
- ・災害時にグラウンドへ避難しやすい計画とする。

（2）教育環境

- ・普通教室の採光に配慮する。
- ・特別支援学級の活動に配慮した配置とする。
- ・習熟度別授業等のため、バランス良く特別活動室を配置する。
- ・多様な学習内容・形態に対応できるように特別教室や教育相談室を配置する。
- ・廊下や水廻りが明るく換気がしやすい計画とする。

（3）避難所機能等

- ・屋内運動場の近くに多目的トイレや防災備蓄倉庫を配置する。
- ・屋内運動場に情報コンセント、電話回線、テレビ端子を設置する。
- ・福祉のまちづくり条例の誘導的基準に適合させ、障がい者に配慮した計画とする。

■ 計画概要

建設地 苫小牧市ウトナイ北2丁目5番
 敷地面積 33,000㎡
 用途地域 第一種住居地域
 防火指定 なし(第22条区域)
 工事計画年度 平成30年度～平成31年度
 施設用途 中学校
 構造・階数 校舎 : 鉄筋コンクリート造3階建て
 屋内運動場 : 鉄骨鉄筋コンクリート造2階建て
 延床面積 校舎 : 5,874㎡
 屋内運動場 : 1,233㎡
 (文部科学省基準)

■ 基本設計方針

(仮称)第16中学校は、ウトナイ地区の住宅地を計画地とし、新設される中学校であります。将来においても、開校時と同様に生徒の学習環境を維持し続け、永く地域に愛される学校づくり「未来へつなぐ～地域とつながる」を目指します。

- I. 将来の生徒数の変動と社会の変化を視野に入れ、多様な学習形態・活動に対応できる弾力的な施設計画を目指します。
- II. 計画地は市東端のウトナイ湖に近い郊外の住宅地に位置することから、周囲の住宅や東側の遊歩道、近隣公園など、周辺の環境に配慮した計画とし、地域との共生を目指します。
- III. 新設校として、機能的かつ防災性・安全性を備えた施設づくりを目指します。

■ 基本テーマ「未来へつなぐ～地域とつながる」

● 「未来へつなぐ」

- ① 生徒の活動の様子が見える「人と人がつながる」(友情をはぐくむ)
 - ・校内の様子を感じ生徒の視線が広がる、明るく回遊性のある空間とします。
- ② 将来の学校環境の変化に柔軟に対応できるフレキシブルな空間構成と拡張性
 - ・耐力壁以外の壁を軽量間仕切りとし、将来の改修、用途変更の自由度を確保します。
 - ・設備の更新に対応した、ゆとりのあるシャフトスペースを確保します。

● 「安心・安全とつながる」

- ① 敷地周囲の住環境との共存
 - ・周囲の住環境に配慮した配置計画とします。
- ② みんなが活用できるバリアフリーデザインに配慮した施設
 - ・オストメイトを備えた多目的トイレを配置。又、スロープの設置により内部へのアクセスのし易さを確保し、更に車椅子対応エレベーターの設置をする事でバリアをなくします。
- ③ 教育環境に配慮した施設
 - ・シックハウスに配慮した建材を使用します。
 - ・十分な耐震性と災害への対応を考慮した計画とします。

● 「環境とつながる」

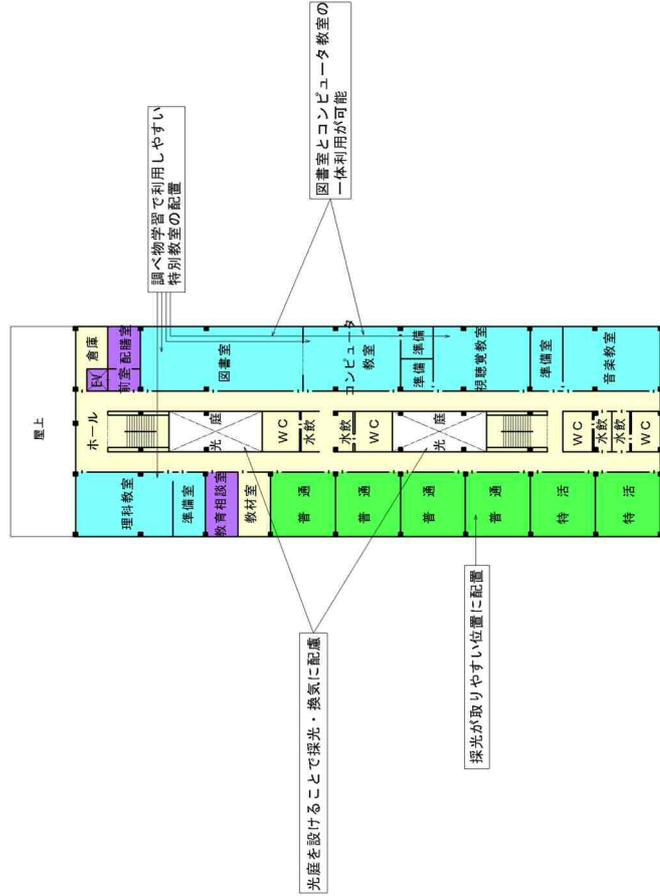
- ① 地域に愛される学校としての「 commonspace (交流空間) 」整備
 - ・正面アプローチは、花壇や植栽、学校菜園の整備をし来校者と学校をつなぐ、交流スペースとします。
 - ② 省資源、省エネルギーな施設計画
 - ・自然採光を取り入れ、冬季の省エネルギーに配慮します。
 - ・長寿命、メンテナンスフリー・環境にやさしい建材を採用します。
 - ・風通しの良い空間をつくります。
- 「地域とつながる」
- ① 地域のシンボルとして永く愛される学校づくり
 - ・外部の交流空間は地域の景観や街並みの形成に貢献します。
 - ② 非常時、地域住民の安全・安心、利便性に寄与する施設整備
 - ・屋内運動場とグラウンドを活用し、地域の避難場所として機能充実を図ります。

9 平面計画図 (2階、3階)

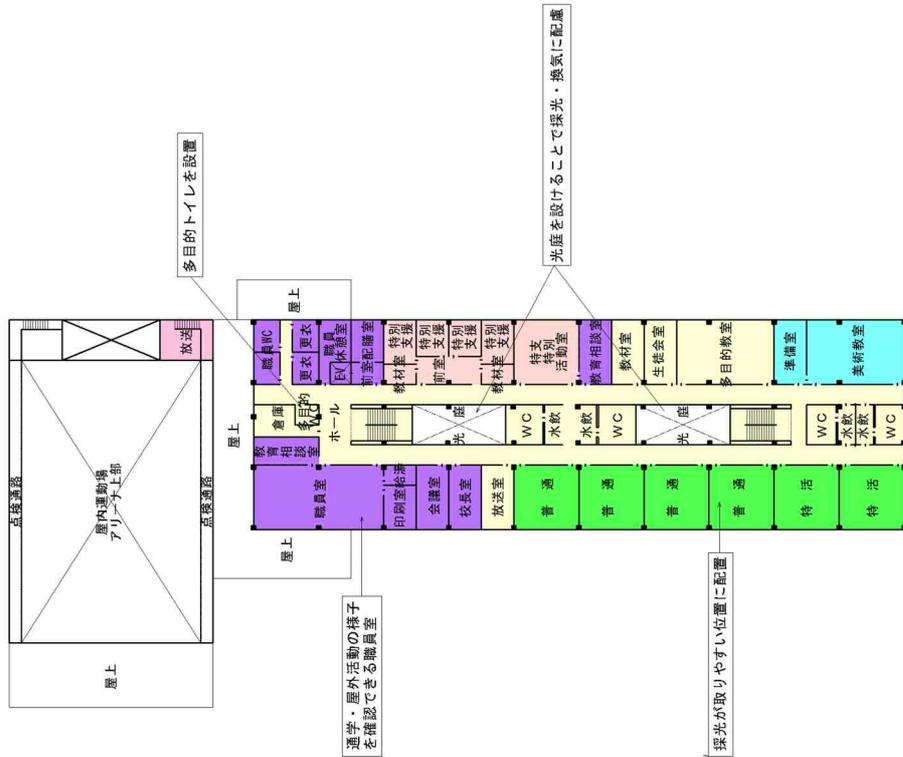
凡例

廊下・便所・その他
普通教室群
特別支援教室
特別教室
管理系室
屋内運動場

3階平面図



2階平面図



10 外観イメージ図

